

簡易型のり面地質調査工法

ソイルサンプラー工法



吹付モルタル内部の地山風化状況⇄

早期診断・早期治療でコスト削減

ソイルサンプラー工法は、斜面、のり面、既設吹付のり面からコアを採取し、地質状況を直接観察・把握できる工法です。

特長

- 従来のボーリング調査などに比べ、簡便(ロープ足場)・低コスト(1/6以下)で斜面、のり面の地質を直接調査することができます。
- 採取したコアを直接観察できるため、硬さ、色、岩組織、風化深度などの多くの情報を得ることができます。
- 既設吹付面の場合は、吹付材の強度、厚さ、空洞の程度、風化状況を確認できるため、適切な対策工の設計に反映できます。

老朽化吹付のり面の調査に最適

近年、施工後30～40年経過したモルタル吹付工は、凍結、クラック、空洞化、地山の風化など、老朽化が進行して崩壊の危険性など、深刻な状態となっている箇所が多く見られます。

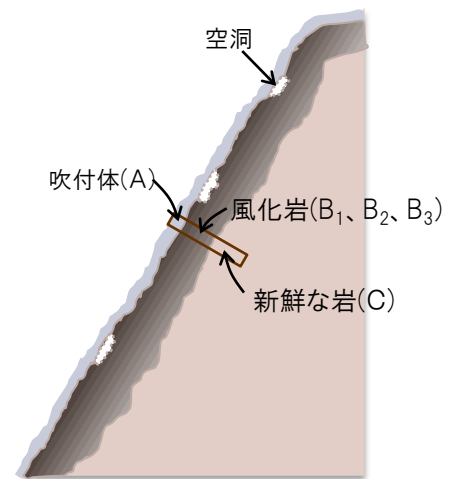
ソイルサンプラー工法は低コストで調査ができるため、目視・打音調査の結果など、老朽化状況に応じて必要な箇所の調査を簡便に行うことができます。

老朽化のり面の調査



採取した試料(コア)

A	0～150mm	吹付体(コンクリート)
B ₁	150mm～450mm	強風化岩
B ₂	450mm～650mm	中風化岩
B ₃	650mm～700mm	弱風化岩
C	700mm～900mm	新鮮な岩



既設吹付のり面